

松浦武四郎記念館の主な歩み

1994年	7月 3日	三雲町が松浦武四郎記念館・小野江コミュニティセンター(博物館と公民館の複合施設)を開館
1996年	2月25日	第1回武四郎まつりを開催(同まつり実行委員会主催)
2005年	1月 1日	三雲町が松阪市、嬉野町、飯南町、飯高町と合併して「松阪市」となる
2008年	2月23日 (～翌年2月22日)	松浦武四郎生誕190年等記念事業を行う
	7月10日	松浦武四郎関係資料が重要文化財に指定
2014年	10月25日	アイヌ民族博物館と姉妹博物館提携を結ぶ
2018年	2月24日 (～翌年2月24日)	松浦武四郎生誕200年記念事業を行う ※北海道150年事業と連携し、三重県総合博物館・北海道博物館・北海道立帯広美術館で開催された武四郎展に協力
	2月25日	松浦武四郎誕生地(松阪市指定史跡)の公開開始
2019年	11月27日	松阪市が札幌大学・札幌大学女子短期大学部と武四郎やアイヌ文化に関する取り組みで交流・連携協定を結ぶ
2021年	4月 1日	小野江コミュニティセンターが分離し、記念館が博物館単独の施設となる
	5月10日	リニューアル工事開始
	7月16日	ウポポイ(民族共生象徴空間)で「松浦武四郎inウポポイ」を開催(～18日)
	10月～12月	高知県立坂本龍馬記念館で開催された開館30周年記念特別展に協力
2022年	4月24日	リニューアルオープン



施設情報

- ①開館時間 午前9時から午後4時30分まで
- ②休館日 毎週月曜日(祝日の場合は開館し、翌平日を休館)
祝日の翌日(祝日が土日の場合は開館)
12月29日～1月3日
展示替え期間(2か月ごとに火曜日から木曜日まで)

③入館料

区分	個人	団体 (20名以上)	年間パスポート ※発行日から1年間有効
一般	360円	230円	1,100円
6歳以上18歳以下	230円	120円	660円
松浦武四郎誕生地 との共通入館券	410円	290円	—

※障害者手帳をお持ちの方及び付添者1名は無料



松浦武四郎記念館

〒515-2109 三重県松阪市小野江町383
TEL 0598-56-6847 / FAX 0598-56-7328



武四郎まつり
マスコットキャラクター
たけちゃん

松浦武四郎記念館 検索

松浦武四郎記念館 リニューアル概要

所在地 三重県松阪市小野江町383番地

敷地面積 3385.34㎡

建築面積 913.28㎡

延床面積 850.00㎡

建物構造 鉄筋コンクリート造 平屋建て

各室面積	面積
テーマ展示室1	120.00㎡
テーマ展示室2	150.00㎡
企画展示室	102.00㎡
収蔵庫	72.00㎡
空調機械室	36.00㎡
収蔵庫前室	24.90㎡
荷解室	11.10㎡
事務室	30.00㎡
湯沸室	4.55㎡
多目的室	70.00㎡
ベビー休憩室	9.20㎡
研究室	12.41㎡
書庫	39.00㎡
ホール	101.50㎡
倉庫1	6.00㎡
倉庫2	7.40㎡
トイレその他	53.94㎡

駐車台数 乗用車58台

(思いやり駐車区画2台、車いす利用者駐車区画2台を含む)

設計

- 基本設計・実施設計(2020年度)
株式会社 トータルメディア開発研究所

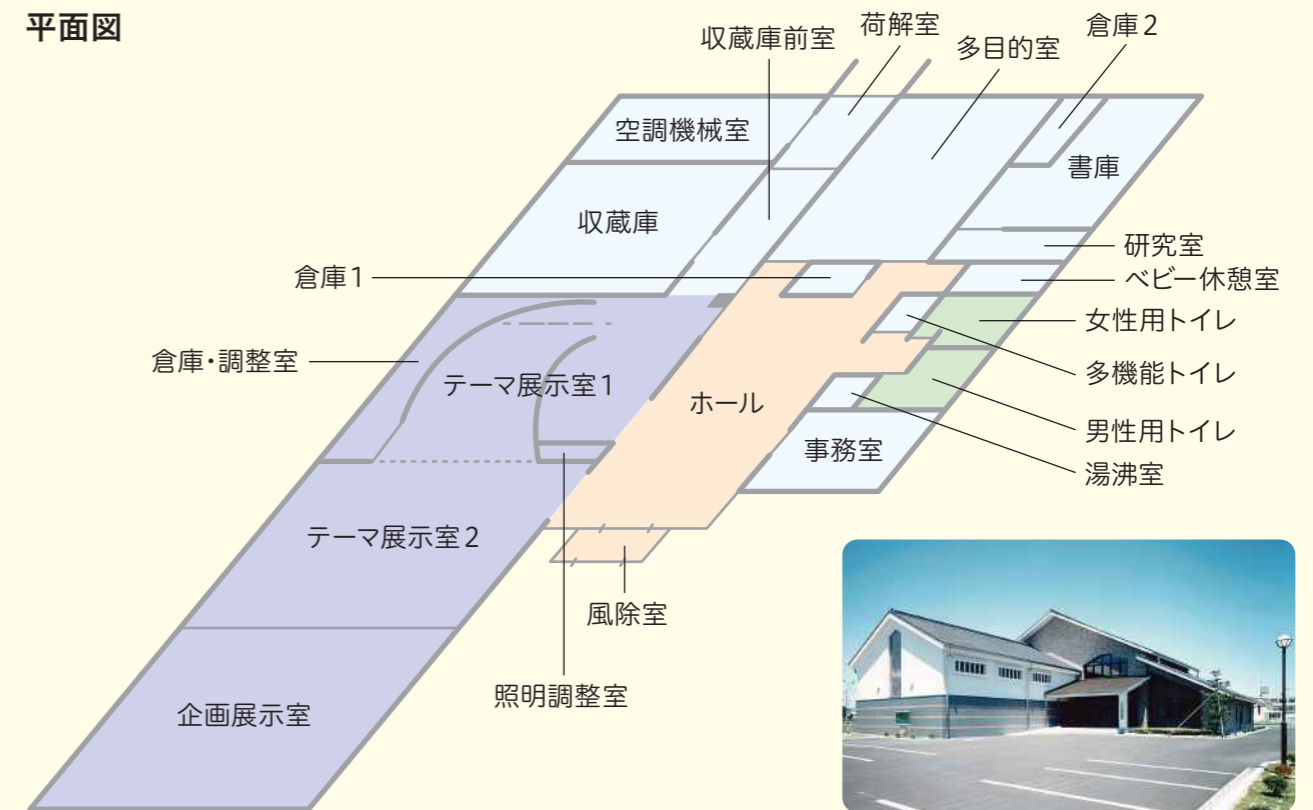
施工等

- 内部・外構改修(2021年度)
有限会社 伊藤工務店
※文化庁国宝重要文化財等防災施設整備事業
(収蔵庫扉取替、収蔵庫ガス消火設備、排煙設備改修が対象)
- 内部・外構改修工事監理(2021年度)
株式会社 トータルメディア開発研究所
- 展示リニューアル業務(2021年度)
株式会社 トータルメディア開発研究所
※内閣府アイヌ政策推進交付金事業
(アイヌの人々に関する部分が対象)
- 一畳敷原寸模型製作(2021年度)
株式会社 佐藤秀
- 同製作監修(2021年度)
学校法人 国際基督教大学
- 駐車場東屋設置(2021年度)
三創建設株式会社
※みえ森と緑の県民税市町交付金事業
- 大首飾り複製修理(2021年度)
ぬなかわヒスイ工房

協力

- 工事中の収蔵資料保管 三重県総合博物館
松阪市文化財センター
- 工事中の書籍等保管 同センター 嬉野整理所
- 工事中の備品等保管 松阪市中郷公民館
松阪市三雲北幼稚園

平面図



松浦武四郎記念館 外観

リニューアル内容

1. 展示室

テーマ展示室1

リニューアル前は、映写室と企画展示室だった空間をひとつに改装しました。ホールから展示室に入ると、まず等身大の武四郎像が来館者をお迎えします。その際には、寸法や材質など細部に至るまで完全再現した武四郎の書斎「一畳敷」を据え置きました。

※実物は、東京都三鷹市の国際基督教大学構内に現存。

一畳敷の
原寸模型



一畳敷原寸模型の向かい側には、武四郎の偉業をたくさんの数字で紹介しています。その先の展示に興味を持ってもらうため、端的な表現にしています。

奥に進むと、弧を描く壁面に2台のプロジェクターが、武四郎の魅力を迫力ある映像を映し出し、紹介します。



映像でわかりやすく魅力を紹介

映像の向かい側は年表になっていて、武四郎の生涯を詳しく表しています。年表の下部にはイラストを交えて、子どもにも理解できるよう工夫しました。

また、映像の左隣には、吉田松陰など武四郎と同じ時代を生きた人物や、司馬遼太郎など現代の著名人が武四郎について語った言葉の数々を紹介しています。

テーマ展示室2

リニューアル前は、展示パネルが並び、映像コーナーがあったところを、武四郎の多彩な功績を伝えるコーナーにしました。

武四郎は、沖縄以外の日本全国を歩いた「旅の達人」であるとともに、幅広い人脈を築いた「交流の達人」、絵が得意な「描写の達人」、記録し本を出版した「伝える達人」、さらには古い物をコレクションした「蒐集の達人」でもありました。

そして、蝦夷地(今の北海道)を6回も探検してアイヌの人々と交流し、アイヌ文化を伝えた人であったことを、資料写真を主にしたグラフィックで紹介しています。

また、武四郎が出版した北海道の詳細な地図を、1億画素のデジタルカメラで撮影したグラフィックは、約9,800のアイヌ語地名を1つ1つ確かめられるほか、蝦夷地調査の足跡や、蝦夷漫画の全ページをご覧いただくことができます。



さまざまな達人であった
武四郎の姿を紹介

企画展示室



テーマに沿って重要文化財を展示

リニューアル前に実物資料を展示していたスペースは、ケース内の照明をLEDに変えました。ここでは、重要文化財に指定された1,505点にのぼる資料を2か月ごとにさまざまなテーマで入れ替えて展示します。本物の資料から、武四郎のすごさを感じていただけます。

2. 利便性の向上

建物入り口のスロープと階段の両側に手すりを付け、玄関には点字ブロックやインターホンをつけました。

ホールには、カウンターを設置して入館券の発行や、ミュージアムグッズの販売、質問や相談ができるようになっています。



知識を深めていただけるホール

トイレも一新し、段差をなくし、洋式にしました。また、多機能トイレにはオストメイトも設置しています。

また、授乳やおむつ替えができるベビー休憩室を設け、小さなお子様連れの方でも安心してご来館いただけます。

会議室は多目的室と名前を変えて模様替えし、75インチの液晶ディスプレイで武四郎に関する映像を見ていただくほか、講座やワークショップを開催したり、壁面に設けたピクチャーレールでパネルなどを展示したりするなど、フレキシブルに活用できるようにしました。 ※貸し出しは行いません

3. 博物館機能の強化

開館以来、公民館との複合施設であった記念館でしたが、公民館施設が分離したことで、博物館単独の施設となりました。そこで、博物館としての機能強化にも取り組みました。

まず、これまでであった和室を書庫に改装し、開館以来集まった膨大な書籍を収納し、有効に活用できるよう整理したほか、書庫に隣接して研究室を新たに設けました。



収蔵庫に設置した止水扉

つづいて、重要文化財などの貴重な資料を保管する収蔵庫については、万一火災が発生した際に備えてガスによる消火設備を導入しました。

さらに、近くを流れる雲出川が氾濫した場合、最大3mの浸水が想定されるため、水害からも資料を守ることができるよう、特殊な止水扉に取り替えました。

このほか、展示室の排煙設備も改修しました。



バリアフリーに
対応した玄関



ベビー休憩室



多くの書籍を収納する書庫